

第23回東日本事例研究オンライン研修会 発表概要シート

法人名	日本老人福祉財団	施設名	佐倉〈ゆうゆうの里〉
発表タイトル	看取りケアに際して現場の介護職員として出来ること		
研究の目的	これまで佐倉施設では看取りに関する様々な研究や取り組みを行っており、医療面では診療所を中心に充実した対応がなされてきた。介護もそれに準じて行ってきたが、その時に対応する職員の個人の力量に頼る部分もあり、「看取りの際にはこういう対応をする」といったスタンダードが十分定着している状態ではなかった。2022年4月、ケアセンター内で4人の看取りケアが重なる状況になり一度にこれほどまでの看取りを行ったことはなく、現場がやや混乱した。そこで看取りケアがスムーズに実施できるよう研究を行った。		
発表の概要	看取りケアのスタンダードを見える化し、職員の不安軽減とケアの向上を目指す。		
研究方法	<p>調査期間：2022年5月～2022年9月</p> <p>実際に看取りケアを行う現場の職員へアンケート調査を実施。看取りケアに対し自信のない職員が56%。看取りの学習はしていないと答えた職員が66%いることが判明。以下の3つを考案。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看取りのスタンダードな物品の確保（アロマポット・CD プレイヤー） ② 対象者専用の5快を用いた、看取りハンドブック・職員日誌の作成 ③ 中心となって看取りケアを行うチームを結成 		
成果・結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ A 様の状態に合わせた詳細な介護内容を記したハンドブックを作成したことにより、チームだけの取り組みではなく、複数の職員が関わり、職員が統一したケアを行えるようになった。 ・ 看取りケア終了後にハンドブックに基づくケアを実施できたかどうか8月にアンケートを実施。看取りケアに対して不安に感じている職員が56%いたが、終了後のアンケートでは「ハンドブックを通し A さんを知れたことで何をすべきか考えてケアをすることができた」「日常生活も看取りケアの一部であることを理解することができた」等の意見があがるなど、看取りケアに対して自信を持てるようになった職員が80%いることが分かった。 ・ 職員日誌を作成し、家族に見てもらうことで介護内容の理解と、感謝の言葉をいただけた。またグリーンケアに繋げることができた。 		
考察	<p>具体的でわかりやすいハンドブックを作成し、細かな部分までケアを統一したことが、これまでの看取りに対する職員の不安を軽減できた。看取りケアに対して自信をつけた職員は増えたが経験の浅い職員からは「実際に病状が急変した時、変化に気づけるか不安がある」との声があがった。終末期の変化など基礎的な看取りケアに対する研修の強化などが今後の課題であると考えられる。</p> <p>コロナ禍面会に来られず家族の不安もあったと考えるが、日誌を通じて看取りケアの様子を伝えることができグリーンケアに繋がった。</p>		

アピールポイント 伝えたいこと	<ul style="list-style-type: none">・ 専門チームを結成し、チーム中心に5快を取り入れたハンドブックを作成。入居者一人一人のケアのスタンダードを「見える化」した。・ ハンドブックを作成したことで、これまでの看取りに対する職員の不安を軽減した。・ コロナ禍面会に来られない家族の方へ、日誌を通じ看取りケアの様子を伝えることができ、グリーフケアの一環になった。
--------------------	--